



エコアクション21

環境経営レポート



～THINK GLOBAL ACT LOCALITY～

グローバルな視点で行動はローカルに

取組期間：2023年6月～2024年5月

発行日：2024年8月31日



株式会社 金丸工務店

【目次】

1.組織の概要	…1
1)事務所名及び代表者氏名	
2)所在地	
3)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先	
4)事業活動の内容	
5)事業規模	
6)事業年度	
2.認証・登録の対象範囲、レポートの対象期間、及び発行日	…1
3.環境経営方針	…2
4.環境経営目標(短期・中長期)	…3
○中・長期目標	
○今期の目標	
5.環境経営計画	…4
6.実施体制と取組内容	…5
7.環境経営目標の実績と評価	…6
8.環境経営計画の取組結果とその評価	
○具体的な取組評価(事務所)	…7
○具体的な取組評価(現場)	…8
9.環境関連法規などの遵守状況の確認、及び評価の結果、並びに訴訟等の有無	…9
10.次年度の環境経営目標および環境経営計画	…10・11
11.代表者の全体評価と見直し指示	…12
資料1(環境ミーティング実績)	…13
資料2(地盤改良:天然砕石工法について)	…14

1.組織の概要

(1)事務所名及び代表者氏名

- ・株式会社 金丸工務店
- ・代表取締役 藤田 薫

(2)所在地

- ・本社 千769-1506 香川県三豊市豊中町本山甲853番地6
- ・倉庫 千769-1506 香川県三豊市豊中町本山甲862番地1

(3)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

- ・環境管理責任者 西岡 昭二
- ・連絡担当者 齋賀 敬子
- ・TEL 0875-62-4070
- ・E-mail:k-02@kanamaru2.com

(4)事業活動の内容

- ・建築工事業 香川県知事許可(特-3)第457号)
 - ・1級建築士事務所 香川県知事登録第2074号
 - ・宅地建物取引業 香川県知事(6)第3485号
- 上記に関連または附帯する一切の事業

(5)事業の規模

- ・売上高(出来高) 396百万円／令和5年度
- ・工事等の件数 144件
- ・従業員 11人
- ・延べ面積 事務所 590㎡、倉庫439㎡

(6)事業年度

- ・6月～5月

2.認証・登録の対象範囲、レポートの対象期間、及び発行日

登録事業所

株式会社 金丸工務店 本社、倉庫

関連事業所

なし

対象事業

建築工事業、一級建築士事務所、宅地建物取引業

取組期間

- ・2023年6月～2024年5月

レポート作成日

- ・2024年8月31日

3.環境経営方針

【基本理念】

地球と暮らそう

Think global Act local !

グローバルな視点で行動はローカルに

私たちは事業活動を通じて

地球環境にやさしく、ウェルビーイングな活動を行い

社会に貢献するために、全社一丸となって

自主的・積極的に行動します

【行動指針】

1. 当社は事業活動を通じて、環境負荷を低減させるための環境行動計画を定め、継続的な環境改善を目指し、次の事に取り組みます。

- ①省資源・省エネルギー取組による二酸化炭素排出量の削減

建設事業における、電力使用量及び石油等の燃料使用量を削減することを心がけ二酸化炭素排出量を低減することに努めます。

- ②廃棄物削減のための3R活動の推進

建設系産業廃棄物の分別の正しい認識を持ち、廃棄物の発生抑制、再使用及び再生利用を進め、廃棄物排出量の低減に努めます。

- ③水資源の有効利用を考慮し節水を心がける

- ④環境住宅推進・啓発

高気密、高断熱、高耐震な家づくりを提案し、耐久性・省エネ性能の高い家づくりを行います。

- ⑤環境ミーティングを年6回開催し社員の環境意識向上に努める

社内で定期的に環境ミーティングを行うことで、全社員の環境への意識を高めていきます。そうすることにより、常に新しいライフサイクルコストを意識した材料、製品選定の情報を全社で共有し、環境負荷の少ない家づくりを目指します。

2. 当社の事業活動に関連する、環境関係法令等を遵守するとともに香川県環境条例及び三豊市環境条例・規則に従い、環境管理の意識を高めることに取り組みます

この環境経営方針は、全ての従業員及び下請の協力会社様に周知し、継続的改善活動に取り組みます。また、当社の環境経営方針及び環境活動の結果については、社外へ公表致します。

制定日：2022年8月1日

株式会社 金丸工務店

代表取締役 藤田 薫

4.環境経営目標

○中・長期目標

目的	単位	基準年 (2021年度)	目 標			
			2023年度	2024年度	2027年度	2030年度
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	36,846	36,478	36,293	35,741	35,188
・電気使用量削減	kWh	14,703	14,556	14,482	14,262	14,041
・ガソリン使用量削減	L	10,347	10,244	10,192	10,037	9,881
・軽油使用量削減	L	1,003	993	988	973	958
・灯油使用量削減	L	728	721	717	706	695
一般廃棄物排出量削減	kg	1,118	1,107	1,102	1,085	1,068
産業廃棄物排出量削減	kg	53,110	52,579	52,313	51,517	50,720
水使用量削減	m3	287	284	283	278	274
ライフサイクルコストを意識した家づくり * 2	件数	6	7	7	8	9

- * 1. 電力のCO2 発生量は、四国電力2022年1月13日公表調整後排出係数0.574 (kg-CO2/kWh)を使用。
- * 2. 組織本来の取り組みとして、ライフサイクルコストを意識した家づくりに取り組む(受注件数)
- 【ライフサイクルコスト・・・計画・設計・施工から、その建物の維持管理、最終的な解体・廃棄までに要する費用の総額】
- * 化学物質の使用はありません

○短期目標 (取組期間 2023年6月～2024年5月)

・全体

目的	単位	基準年 (2021年度)	目標
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	36,846	36,478
・電気使用量削減	kWh	14,703	14,556
・ガソリン使用量削減	L	10,347	10,244
・軽油使用量削減	L	1,003	993
・灯油使用量削減	L	728	721
一般廃棄物排出量削減	kg	1,118	1,107
産業廃棄物排出量削減	kg	53,110	52,579
水使用量削減	m3	287	284
ライフサイクルコストを意識した家づくり * 2	件数	6	7

・事務所

目的	単位	基準年 (2021年)	目標
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	14,191	14,050
・電気使用量削減	kWh	12,248	12,126
・ガソリン使用量削減	L	2,305	2,282
・灯油使用料削減	L	728	721
一般廃棄物排出量削減	kg	1,118	1,107
水使用量削減	m3	106	105

・建設現場

目的	単位	基準年 (2021年)	目標
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	22,655	22,428
・電気使用量削減	kWh	2,455	2,430
・ガソリン使用量削減	L	8,042	7,962
・軽油使用量削減	L	1,003	993
産業廃棄物排出量削減	kg	53,110	52,579
水使用量削減	m3	181	179
ライフサイクルコストを意識した家づくり * 2	件数	6	7

5.環境経営計画

○事務所

【取組期間 2023年6月～2024年5月】

		具体的実施項目	責任者
二酸化炭素 排出量削減	電気使用量削減	①不要な照明を消す	総務部責任者
		②適正温度の維持	
		③休憩時、不在時の消灯	
		④節電シール貼付	
		⑤夏のグリーンカーテン、冬のダイレクトゲイン *の活用	
	灯油使用量削減	①使用しない時にはストーブの電源OFF	営業部責任者
	ガソリン使用量削減	①エコドライブの励行	
		②空気圧の点検	
		③定期的な保守点検の実施	
廃棄物 排出量削減	一般廃棄物削減	①コピー用紙の裏紙利用	総務部責任者
		②分別の徹底	
		③FAXの電子化	
水使用量削減	節水	①節水シール貼付	総務部責任者
		②ストップノズルの取付	

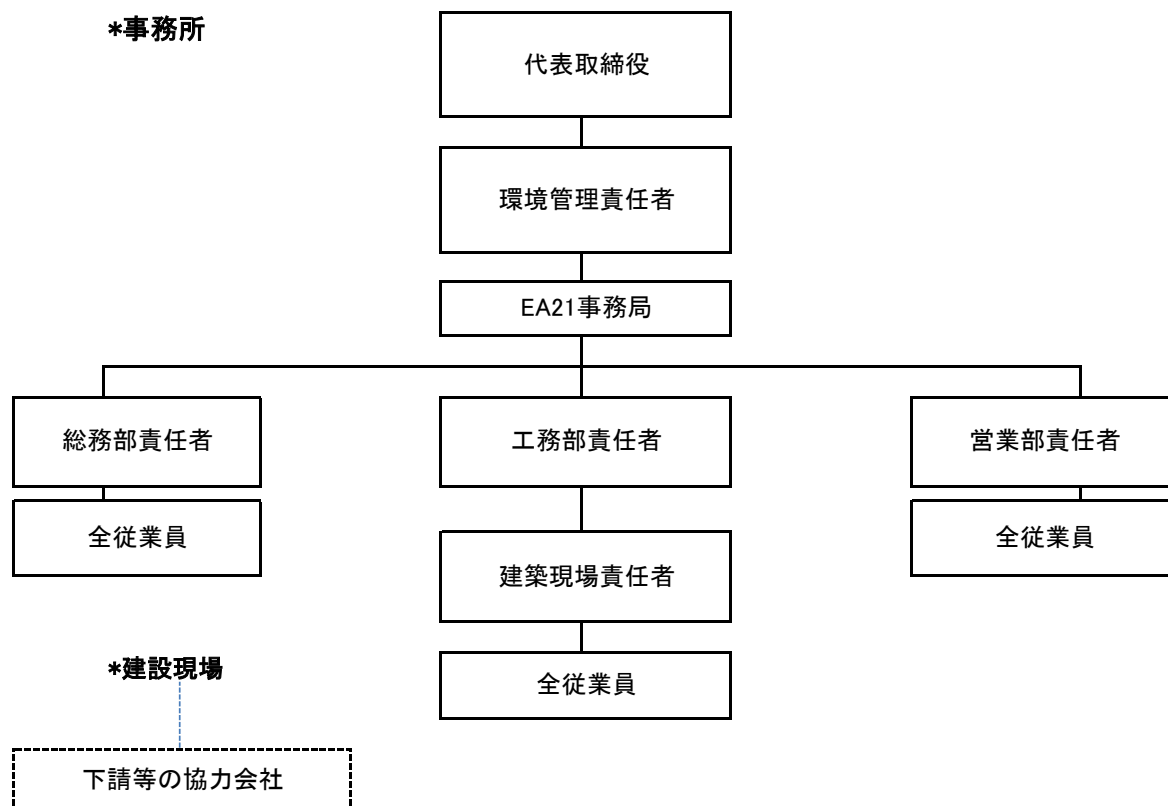
*ダイレクトゲインとは・・・昼間に太陽光を床に当てて部屋を暖めるという方式

○現場

【取組期間 2023年6月～2024年5月】

		具体的実施項目	責任者
二酸化炭素 排出量削減	電気使用量削減	①不要な照明を消す	工務部責任者
		②適正温度の維持	
		③休憩時、不在時の消灯	
	ガソリン使用量削減	①エコドライブの励行	建築現場責任者
		②空気圧の点検	
		③定期的な保守点検の実施	
	軽油使用量削減	①アイドリングストップの徹底	
		②エコドライブの励行	
		③定期的な保守点検の実施	
廃棄物 排出量削減	産業廃棄物削減	①分別の徹底	工務部責任者
		②仮設材等の再利用	
		③再資源化の推進	
水使用量削減	節水	①ストップノズルの取付	工務部責任者
		②節水意識の働きかけを実施	
組織本来の 取組	ライフサイクルコストを 意識した家づくり	①高气密・高断熱・高耐震な家づくりを推進	営業部責任者
		②全熱交換型の換気システムの推奨	
		③環境ミーティングの定期的な開催	

6.実施体制図



		役割・責任・権限
代表取締役		・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実地に必要な、人、設備、費用、時間を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定、見直し及び全従業員への周知 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施
環境管理責任者		・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境活動の取り組み結果を代表者に報告 ・全従業員に対する教育・訓練の実施 ・環境経営目標、環境経営計画を確認・承認 ・環境関連法規等取りまとめ表の確認・承認 ・特定された緊急事態への対応マニュアル確認・承認 ・環境経営レポートを確認・承認
EA21事務局		・環境経営レポートの作成 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境経営目標、環境経営計画書を作成 ・特定された緊急事態への対応マニュアル作成
部 責 任 者	総務部	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び、環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・総務部の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・環境活動の実績集計
	営業部	・営業部に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告
	工務部・建築現場	・工務部の特定された緊急事態への対応マニュアル作成 ・工務部に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・工務部の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員		・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加

7.環境経営目標実績結果と評価

2023年6月～2024年5月実績

○全体

目的	単位	基準年 (2021年度)	目標	実績	達成状況	評価
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	36,846	36,478	39,219	7%増	×
・電気使用量削減	kWh	14,703	14,556	13,319	8%減	○
・ガソリン使用量削減	L	10,347	10,244	11,688	14%増	×
・軽油使用量削減	L	1,003	993	1,117	12%増	×
・灯油使用量削減	L	728	721	633	12%減	○
一般廃棄物排出量削減	kg	1,118	1,107	424	62%減	○
産業廃棄物排出量削減	kg	53,110	52,579	187,768	257%増	×
水使用量削減	m3	287	284	109	62%減	○
ライフサイクルコストを意識した家づくり	件数	6	7	8	1件増	○

* 1. 電力のCO2 発生量については、

○:達成 ×:未達成

四国電力2022年1月13日公表調整後排出係数0.574 (kg-CO2/kWh)を使用した。

* 化学物質使用はありません

○事務所

目的	単位	基準年 (2021年)	目標	実績	達成状況	評価
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	14,191	14,050	14,805	5%増	×
・電気使用量削減	kWh	12,248	12,126	11,217	7%減	○
・ガソリン使用量削減	L	2,305	2,282	3,032	32%増	×
・灯油使用量削減	L	728	721	535	26%減	○
一般廃棄物排出量削減	kg	1,118	1,107	424	62%減	○
水使用量の削減	m3	106	105	80	24%減	○

○建設現場

目的	単位	基準年 (2021年)	目標	実績	達成状況	評価
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	22,655	22,428	24,414	8%増	×
・電気使用量削減	kWh	2,455	2,430	2,102	13%減	○
・ガソリン使用量削減	L	8,042	7,962	8,656	8%増	×
・軽油使用量削減	L	1,003	993	1,117	12%増	×
・灯油使用量削減	L	0	0	98	100%増	×
産業廃棄物排出量削減	kg	53,110	52,579	187,768	257%増	×
水使用量の削減	m3	181	179	29	84%減	○
ライフサイクルコストを意識した家づくり	件数	6	7	8	1件増	○

○コメント(事務所と現場を記述)

二酸化炭素排出量削減	事務所は節電意識はついてきたものの目標値まで削減することができなかった。現場は公共工事現場事務所や物件増の為電気使用量が増え、リフォーム件数が伸びた為運搬車用の軽油使用量も上がり未達となった。
廃棄物排出量削減	事務所についてはしっかり分別も行い大幅に排出量を削減できた。建設現場は公共工事(解体)を受注したため大幅増となった。
水使用量削減	事務所・現場共に節水意識が定着し水使用量の削減を実行できた。
組織本来の取組	高気密・高断熱・高耐震や全熱交換換気システムについてお客様のご意向に沿いながらご説明・ご提案を行い受注につながった。また、2か月に1度の環境ミーティングではエコ建材や性能向上リノベーションについての勉強会を行った。

8.環境経営計画の取組結果とその評価

○事務所

【取組期間 2023年6月～2024年5月】

		具体的実施項目	6・7・8	9・10・11	12・1・2	3・4・5	評価
二酸化炭素	電気使用量削減	①不要な照明を消す	○	○	○	△	△
		②適正温度の維持	○	○	○	○	○
		③休憩時、不在時の消灯	○	○	○	○	○
		④節電シール貼付	○	○	○	○	○
		⑤グリーンカーテン・ダイレクトゲイン	○	○	○	○	○
	灯油使用量削減	①使用しない時にはストーブの電源OFF	-	○	○	○	○
	ガソリン使用量削減	①エコドライブの励行	○	○	○	○	○
		②空気圧の点検	○	△	△	○	△
		③定期的な保守点検の実施	○	○	○	○	○
廃棄物	一般廃棄物削減	①コピー用紙の裏紙利用	○	○	○	○	○
		②分別の徹底	○	○	○	○	○
		③FAXの電子化	○	○	○	○	○
水使用量	節水	①節水シール貼付	○	○	○	○	○
		②ストップノズルの取付	○	○	○	○	○

○:計画通り実施 △:一部出来ていなかった ×:出来ていない

○評価に対するコメントと次年度の取組内容

目的	評価に対するコメント	次年度の取り組み内容
二酸化炭素	電気使用量削減については、しっかり取り組んでいる。空気圧の点検の周知が足りなかった為、実施できていないことがあった。	社用車の空気圧や保守点検・メンテナンスのタイミングを周知し、保守忘れのないようにしていく。
一般廃棄物	裏紙利用や分別にしっかりと取り組んでいる。	次年度からFAXを廃止し、より一層の廃棄物削減に取り組んでいく。
水使用量	使用時の節水意識は定着してきている。	節水シール貼り付けとストップノズルの取付は出来ているため、次年度から定期的に節水の呼び掛けを行い、節水意識を高めてゆく。

8.環境経営計画の取組結果とその評価

○現場

【取組期間 2023年6月～2024年5月】

		具体的実施項目	6・7・8	9・10・11	12・1・2	3・4・5	評価
二酸化炭素	電気使用量削減	①不要な照明を消す	○	○	○	○	○
		②適正温度の維持	○	○	○	○	○
		③休憩時、不在時の消灯	○	○	○	○	○
	ガソリン使用量削減	①エコドライブの励行	○	○	○	○	○
		②空気圧の点検	○	○	△	○	△
		③定期的な保守点検の実施	○	○	△	○	△
	軽油使用量削減	①アイドリングストップの徹底	○	○	○	○	○
		②エコドライブの励行	○	○	○	○	○
		③定期的な保守点検の実施	○	○	○	○	○
廃棄物	産業廃棄物削減	①分別の徹底	○	○	○	○	○
		②仮設材等の再利用	○	○	○	○	○
		③再資源化の推進	○	○	○	○	○
水使用量	節水	①ストップノズルの取付	○	○	○	○	○
		②節水意識の働きかけを実施	○	○	○	○	○
組織本来の取組	ライフサイクルコストを意識した家づくり	①高気密・高断熱・高耐震な家づくりを推進	○	○	○	○	○
		②全熱交換型の換気システムの推奨	○	○	○	○	○
		③環境ミーティングの定期的な開催	○	○	○	○	○

○：計画通り実施 △：一部出来ていなかった ×：出来ていない

○評価に対するコメントと次年度の取組内容

目的	評価に対するコメント	次年度の取り組み内容
二酸化炭素	空気圧の点検や保守点検の実施が周知不足の為できていないことがあった。その他の項目はよく取り組んでいる。	引き続き節電・エコ運転について繰り返し声掛けすると共に、社用車の保守点検タイミングを周知し、保守忘れのないようにする。
産業廃棄物の削減	徹底した分別に取り組んでいる。	次年度も継続して徹底した分別・再資源化を行っていく。また、公共事業の有無や現場数の増減に排出量が大きく左右されるため、次期からは排出量削減から再資源化率に指標を変更する。
水使用量	節水意識は定着してきている。	ストップノズルの取付は出来ているため取組から外し、引き続き定期的に節水の呼び掛けを行い、節水意識を高めてゆく。
ライフサイクルコストを意識した家づくり	環境ミーティングは定期的を開催することができた。ライフサイクルコストを意識した家づくりのご提案も標準的にやっている。	引き続き社内での環境ミーティングにてエコ建材や施工方法などの情報共有を行い、環境に配慮した家づくりをご提案していく。

9.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

NO	法令名	チェック項目	条文No.	結果
1	香川県環境基本条例	事業活動によって発生する廃棄物を適正に処理しているか？	第5条	遵守
2	香川県生活環境の保全に関する条例	地球温暖化防止の理解を深め、自動車によるCo2の排出を抑制するため、エコ運転を励行しているか？	第93条	遵守
3	同上	事業所にて発生する廃棄物の減少に努め資源の有効活用を図ると共に、電気の使用量を削減し省エネルギー活動を推進することを行っているか？	第95条	遵守
4	同上	エネルギーの消費量が少ない電気機器等の使用及び電気機器等の効率的な使用に努めているか？	第96条	遵守
5	同上	環境マネジメントプログラム展開体制の組織が設置されているか？	第99条	遵守
6	同上	アイドリングストップの励行がされているか？	第102条	遵守
7	みどり豊かでうおいのある県土づくり条例	事業者は、県が実施する緑化の推進とみどりの保全にかんする施策に協力するよう努めているか？	第4条	遵守
8	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出を依頼する場合には委託契約書を締結しているか？産業廃棄物はマニフェストを発行し、収集運搬、中間処理、最終処理の確認を実施しているか？マニフェスト発行から5年間記録を保管しているか？香川県へのマニフェストに関する報告書を提出しているか？	第12条 施工規則 8条	遵守
9	騒音規制法	指定地域内において特定建設作業を伴う建設工事を施工しようとする者は、当該特定建設作業の開始の日の七日前までに、市町村長に届け出をしているか？ 作業敷居境界にて85デシベル以下を保っているか？	第14条 第15条	遵守
10	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	業務用エアコンの適正管理(3か月に1回以上の簡易点検)はできているか？	平成26年経・環告示第13号 第16条	遵守
11	省エネ法	エネルギーの使用の合理化に努めているか？	第4条	遵守
12	道路交通法	車両の運転者は当該車両について政令で定める乗車人員または積載物の重量、大きさ若しくは積載の方法の制限を超えて乗車をさせ又は積載をして車両を運転していないか？	第57条 第58条	遵守
13	特定家庭用機器商品化法(家電リサイクル法)	特定家庭用機器の排出する場合は適切に処理しているか？	第6条	遵守
14	浄化槽法	浄化槽(合併処理浄化槽)設置届け出・浄化槽の維持管理(法定検査・保守点検・清掃)を行っているか？	第2章 第3章	遵守
15	三豊市環境基本条例	事業活動に伴って生じた廃棄物等の処理その他の公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するために必要な措置を講じているか？	第5条	遵守
16	建設リサイクル法	特定建設資材を使用する工事を発注する7日前までに県知事に届出がされているか？	第9・10条	遵守
17	石綿障害予防規則	石綿等の有無を調査し、作業計画を作成し事前に労働基準監督署への届出を行っているか？	第3・4条	遵守

※遵守状況の評価の結果、環境法規制などの逸脱はありません。また、過去3年間にわたって違反・訴訟もありません。

※関係当局からの違反等の指摘もありません。

10.次年度の環境経営目標および環境経営計画

○短期目的・目標

・取組期間 2024年6月～2025年5月

・全体

目的	単位	基準年(2021年度)	目標(2024年度)
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	36,846	36,293
・電気使用量削減	kWh	14,703	14,482
・ガソリン使用量削減	L	10,347	10,192
・軽油使用量削減	L	1,003	988
・灯油使用量削減	L	728	717
一般廃棄物排出量削減	kg	1,118	1,102
産業廃棄物再資源化率100%の維持 * 4	%	100	100
水使用量削減	m3	287	283
ライフサイクルコストを意識した家づくり * 2	件数	6	7

* 1. 電力のCO2 発生量は、四国電力2022年1月13日公表調整後排出係数0.574(kg-CO2/kWh)を使用。

* 2. 組織本来の取り組みとして、ライフサイクルコストを意識した家づくりに取り組む(受注件数)

【ライフサイクルコスト・・・計画・設計・施工から、その建物の維持管理、最終的な解体・廃棄までに要する費用の総額】

* 3. 化学物質の使用はありません

* 4. 産業廃棄物については公共事業の有無や現場数の増減で排出量が大きく左右される為、次期からは排出量削減から「再資源化率100%維持」に指標を変更する(2021年実績を基準)

・事務所

目的	単位	基準年(2021年)	目標
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	14,191	13,978
・電気使用量削減	kWh	12,248	12,064
・ガソリン使用量削減	L	2,305	2,270
・灯油使用量削減	L	728	717
一般廃棄物排出量削減	kg	1,118	1,102
水使用量削減	m3	106	105

・建設現場

目的	単位	基準年(2021年)	目標
二酸化炭素排出量削減 * 1	kg-CO2	22,655	22,315
・電気使用量削減	kWh	2,455	2,418
・ガソリン使用量削減	L	8,042	7,922
・軽油使用量削減	L	1,003	988
・灯油使用量削減	L	0	0
産業廃棄物再資源化率100%の維持	%	100	100
水使用量削減	m3	181	178
ライフサイクルコストを意識した家づくり * 2	件数	6	7

10.次年度の環境経営目標および環境経営計画

【取組期間 2024年6月～2025年5月】

○事務所

		具体的実施項目	責任者
二酸化炭素 排出量削減	電気使用量削減	①節電を呼び掛ける	総務部責任者
		②適正温度の維持	
		③休憩時、不在時の消灯	
		④夏のグリーンカーテン、冬のダイレクトゲイン* の活用	
	灯油使用量削減	①使用しない時にはストーブの電源OFF	営業部責任者
	ガソリン使用量削減	①社用車の保守点検タイミングの周知	
		②定期的な保守点検の実施	
廃棄物 排出量削減	一般廃棄物削減	③エコドライブの励行	総務部責任者
		①コピー用紙の裏紙利用	
水使用量削減	節水	②分別の徹底	総務部責任者
		①定期的な節水の呼びかけを行う	

*ダイレクトゲインとは・・・昼間に太陽光を床に当てて部屋を暖めるという方式

○現場

		具体的実施項目	責任者
二酸化炭素 排出量削減	電気使用量削減	①節電を呼び掛ける	工務部責任者
		②適正温度の維持	
	ガソリン使用量削減	①社用車の保守点検タイミングの周知	建築現場責任者
		②定期的な保守点検の実施	
		③エコドライブの励行	
	軽油使用量削減	①社用車の保守点検タイミングの周知	
②定期的な保守点検の実施			
③エコドライブの励行			
廃棄物 排出量削減	産業廃棄物削減	①分別の徹底	工務部責任者
		②仮設材等の再利用	
		③再資源化の推進	
水使用量削減	節水	①定期的な節水の呼びかけを行う	工務部責任者
組織本来の 取組	ライフサイクルコスト を意識した家づくり	①高気密・高断熱・高耐震な家づくりを推進	営業部責任者
		②全熱交換型の換気システムの推奨	
		③環境ミーティングの定期的な開催	

11.代表者による全体評価と見直し・指示

今回の環境経営目標実績結果を省みると、公共事業や現場数や事務所からの距離により、二酸化炭素排出量や産業廃棄物排出量が増加しましたが、取組自体は継続してよく行われております。

今回の取り組みから、環境経営計画について、節水シールの添付やストップノズルの取付等の当たり前に行っている項目は削除し、より各自の意識が高まるような取組に変更します。これに加え、次期から会社FAXを廃止し、無駄な印刷物削減をより一層進めていきます。

また、環境経営目標の産業廃棄物については、公共事業(特に解体)の有無や建築物件数によって大きく数値が左右されるため、今後は削減率ではなくリサイクル率を軸に取り組んでいくことに変更いたします。

特に評価できる点としては、2点挙げられます。

1点目は2カ月に1度の環境ミーティングについてです。エコアクション21に取り組んでからの2年弱の間に12回の環境ミーティングを開催し、社員だけでなく関係業者と共に環境について考えることができました。(資料1参照)各自が「自分事」として環境問題や自分たちの携わる家づくりについて考えるよい機会になっていると感じています。

また、ライフサイクルコストを考慮した家づくりの一環として、地盤改良に「天然砕石パイル工法」を採用いたしました。これにより、セメント柱状改良工法や鋼管杭工法に比べるとCO₂削減が可能な上、将来的な建て替え時に産業廃棄物にならないというメリットもあります。このように新しい技術についても積極的に取り組んでおります。(資料2参照)

2点目は2023年12月に行った店舗・接客ギャラリー・商談スペースの省エネ窓リノベ、省エネ化機器導入です。開口部の内窓設置と天井エアコンのリプレイスを行ったことにより今後の電気使用量や灯油使用量の削減を見込めます。

引き続き経営面での目標の達成を図りながら、更なる環境活動の定着化、継続的な改善の達成の為に全社員で取り組んでまいります。

環境経営方針	環境経営目標・ 環境経営計画	実施体制
☐ 見直し	☒ 見直し	☐ 見直し
☒ 継続	☐ 継続	☒ 継続

実施日：2024年8月31日

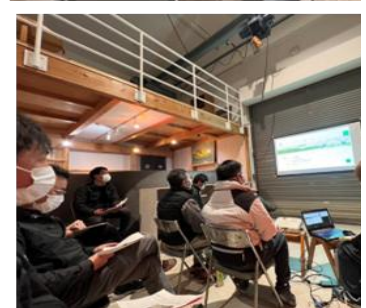
株式会社 金丸工務店

代表取締役 藤田 薫

資料1 【環境ミーティング実績】

弊社では2ヵ月に1回、環境をについての勉強会を行っております。内容としてはエコアクション21取組の関係企業を含めた全社的な周知や、弊社の本業である建築にまつわるエコ素材や工法の勉強会など、積極的に意見交換を行う場となっています。

	日程	参加人数	内容
1	2022/8/2	11名	エコアクション21キックオフミーティング
2	2022/9/5	11名	エコアクション21の意義・効果・今後の予定について
3	2022/12/28	11名	アイドリングストップやエコドライブについて
4	2023/1/10	11名	エコアクション21 環境経営レポートについて
5	2023/2/16	32名	金丸会にて エコアクション21の取り組みについて
6	2023/5/19	13名	環境について各自が日頃感じていること
7	2023/6/8	34名	金丸会にて 環境に配慮した資材の提案
8	2023/6/16	57名	安全大会にて 作業所における避難訓練の重要性
9	2023/9/15	11名	環境の為に自分たちにできること・感じていること
10	2023/11/9	29名	断熱リフォームについて
11	2024/3/13	6名	耐震診断ソフト（ホームズ君）勉強会
12	2024/3/18	7名	素材選びの勉強会
13	2024/6/20	54名	エコアクション21とSDGsについて
14	2024/9/3	7名	BCP作成について
15	2024/12/13	10名	防災備蓄収納について



資料2 【地盤改良：天然砕石工法】

- ・天然砕石しか使わない為、土壌汚染、地下水汚染を起こしません。
- ・大地震の衝撃力に強く、液状化の危険を減らします。
- ・将来の家の建て替え時に産業廃棄物とならないため、撤去費用が発生しません。
- ・セメント柱状改良工法や鋼管杭工法に比べると、弊社実績で5,241kgのCO₂を削減しました。（ブナの木476本の年間CO₂吸収量に当たります）



ポイント1 地震時の衝撃に強い

砕石パイルと原地盤で複合的に面全体で建物を支えるので安定した強さがあります。

ポイント2 環境貢献工法

天然の砕石しか使わないので、土壌汚染や環境破壊による周辺地域への悪影響を起こしません。つまり住む人の健康被害を起こしません。

ポイント3 産廃費用が発生しない

産業廃棄物(コンクリート、鉄パイプ)として扱われないので、将来取り除く必要がありません。

ポイント4 リユースで地球に貢献

将来家の建て替えをするときも、同程度の家であれば、繰り返し使えます。

ポイント5 液状化対策工法

地震時の液状化を、「ドレーン効果(排水効果)」により抑制します。

ポイント6 パーフェクトな工事保証

日本大手保証会社の認定工法です。

ポイント7 CO₂を5,000kg削減

砕石しか使わないことにより他の工法に比べCO₂の排出を少なくします。

ポイント8 無公害工法

今まで施工が出来なかった地下水の多い地盤やセメントの固まらない腐植土の地盤、六価クロムが出る火山灰の地盤でも、問題なく施工が出来ます。

ポイント9 遺跡になる工法

セメントや鉄パイプのように劣化したり、錆びたりしない、永久地盤工法です。